

入札時に生産性向上の取組を評価する取組の試行(案)

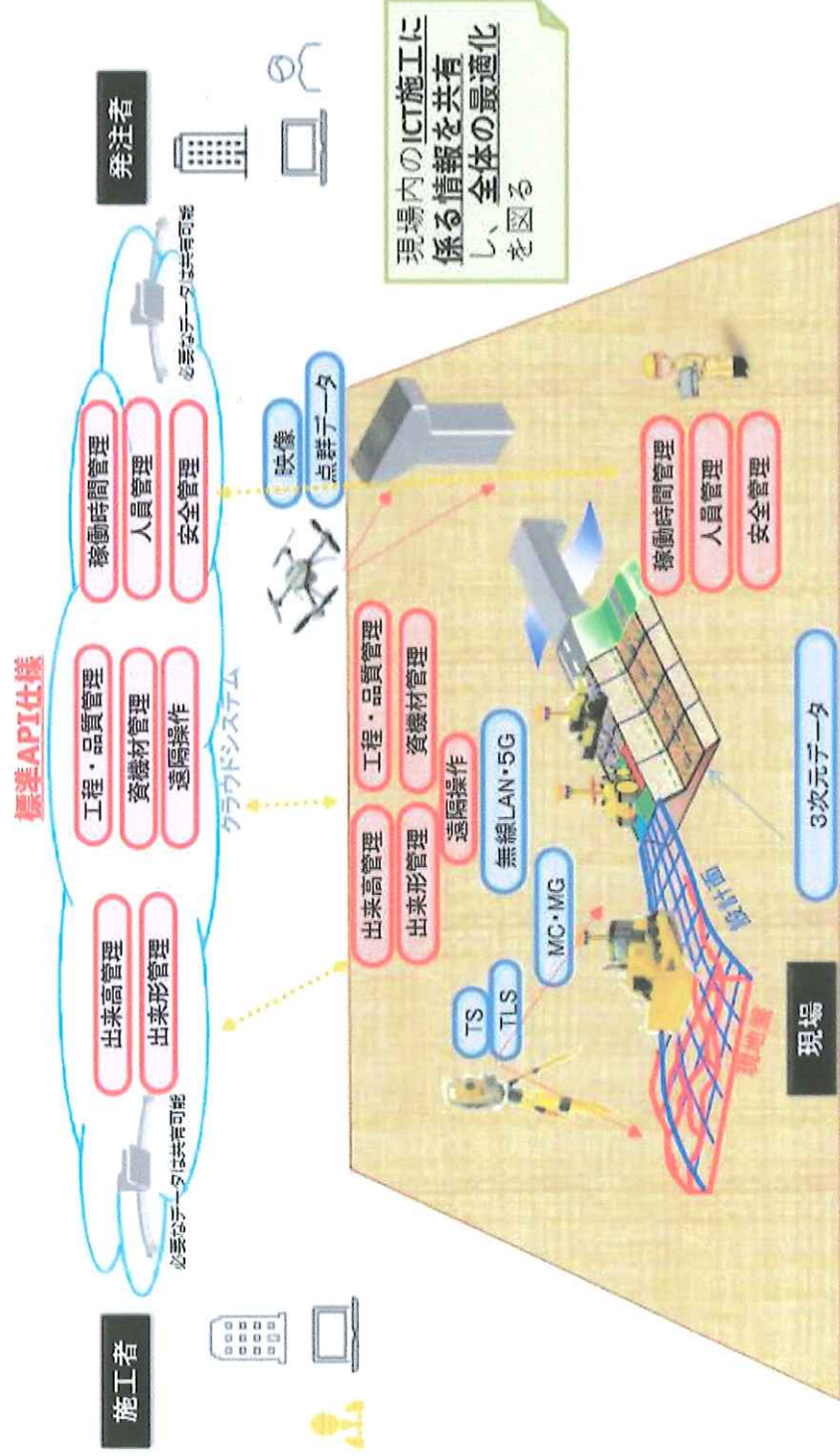
○i-Constructionの推進、新型コロナウイルス感染症対策を契機として、非接触・リモート型の働き方への転換、抜本的な生産性や安全性向上を図るためインフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション(DX)のより一層の推進が課題。

○こうした状況を踏まえ、

術提案評価型(S型)では、ICT活用等による生産性向上に関する提案を求めめる試行

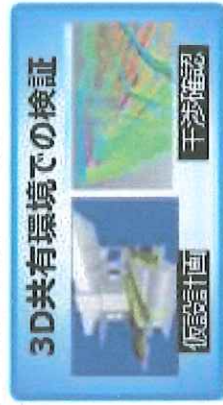
施工能力評価型(I型)では、ICT活用等による生産性向上について施工計画に記載を求めめる試行

を行い、ICT活用等による生産性向上の取組の推進・普及を図る。



公共事業を「現場・実地」から「非接触・リモート」に転換

・発注者・受注者間のやりとりを「非接触・リモート」方式に転換するためのICT環境を整備



入札時に生産性向上の取組を評価 技術提案評価型(案)

■ 目的

生産性向上の推進のため、工事の品質確保等に関する複数の評価項目のうち、ICT活用等による生産性向上に関する技術提案を設定し提案を求めて評価していく。

※既に一部の地方整備局では、本主旨に沿った試行を実施

■ 対象工事

技術提案評価型(S型)で発注する工事のうち、下記のいずれかに該当するもの

- ・ 入札参加者が多く見込まれる工事
- ・ 同一工種の施工量が大きく生産性向上の効果が大きいと想定される工事

■ 実施方法

テーマ(課題)に対して複数求める提案のうち1つを、生産性向上に資する提案として設定

<従来>

- ・ 総合的なコストの縮減に関する技術提案
- ・ 工事的物の性能、機能の向上に関する技術提案
- ・ 環境対策等、特に配慮が必要な事項への対応に関する技術提案

<試行>

複数求める提案のうち1つを、

- ・ 施工の効率化や省力化に関する提案
- ・ 労働環境の改善に関する提案
- ・ 情報通信技術(ICT)の活用等による生産性向上に関する提案 等

に係る技術提案として求める。

■ 評価方法(例)

提案について、生産性向上の効果について、段階的評価(本省ガイドラインと同様)を実施

高い効果が期待できる	満点
効果が期待できる	50%
一般的事項のみの記載となっている	0点

■ 目的

ICT活用等による生産性向上とその普及につなげるため、不確定要素が少なく生産性向上を図りやすい工事を中心に、ICT活用等による生産性向上について施工計画に記載を求めて評価していく。

■ 対象工事

施工能力評価型（I型）で発注する発注者指定型のICT活用工事。

■ 試行内容

・I型で提出を求める施工計画について、「施工の効率化や新技術の活用による生産性向上について」を特に配慮すべき事項として入札説明書に示し、記載を求める。

＜従来＞

発注者が示す仕様に基づき施工する上でどういう点に配慮して工事を施工するか(施工上配慮すべき事項)について、特に重要と考えられる工種に係る施工方法について記述を求める。又は、これに代えて、環境対策等、特に配慮すべき事項について記述を求める。

＜試行＞

従来から記述を求めている事項に、
・施工の効率化や新技術の活用による生産性向上等の記述を求める

■ 評価方法(例)

記載内容の妥当性の有無を確認(①、②いずれかに該当する場合には妥当性「有」として評価)

①ICT活用工事における実施内容について妥当な内容が記載されているか。

②ICT活用工事における実施内容以外で施工の効率化や新技術の活用による生産性向上の取組として妥当な内容が記載されているか。

※以上の方法を基本とするが、施工計画を点数化して評価している事例もあることから、記述された内容に応じて点数化して評価することも可能。